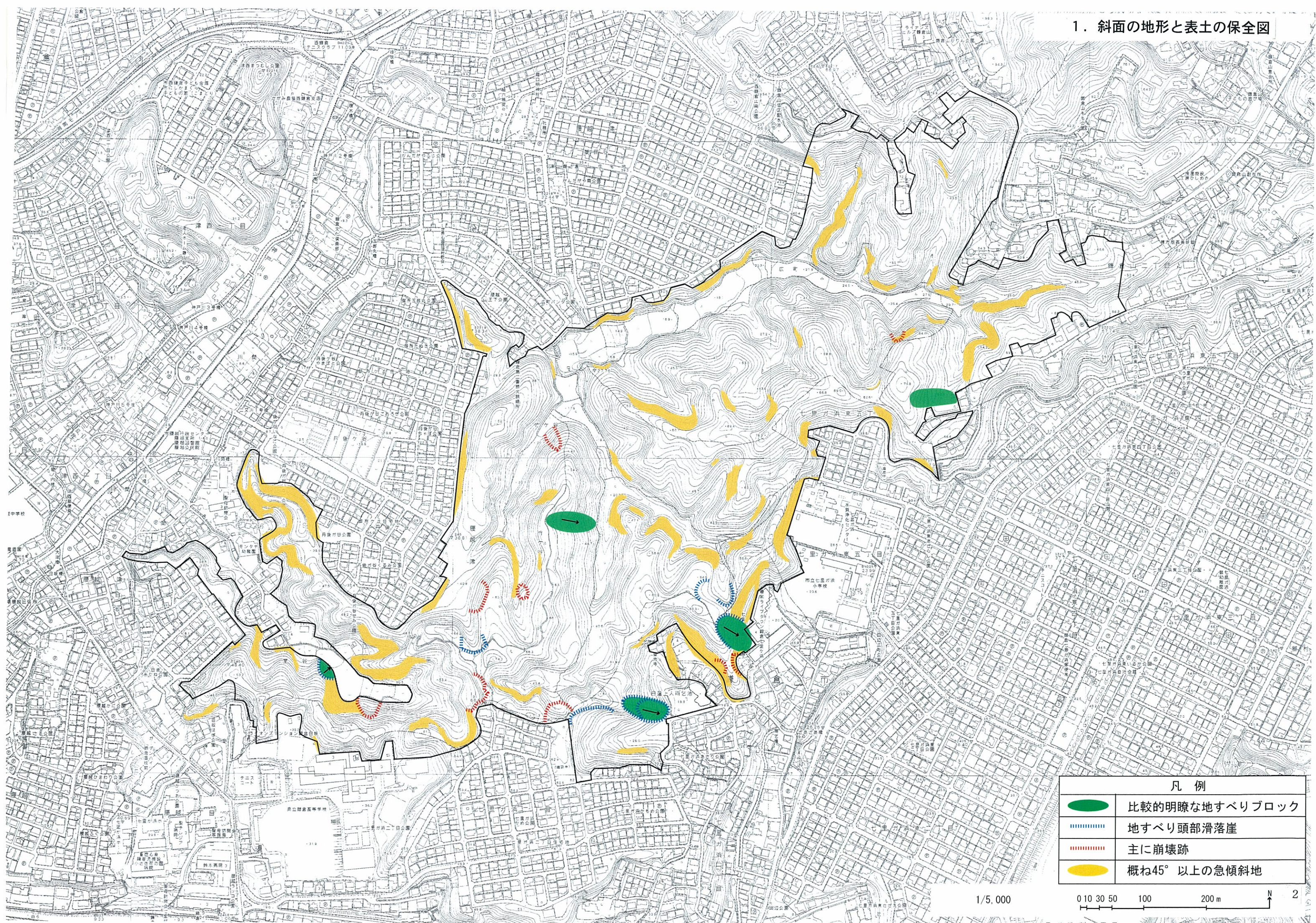


Ⅱ. 基本計画作成にあたり行った補足調査

※補足調査を行った区域は、全て「鎌倉市緑の基本計画」における区域とした

1. 斜面の地形と表土の保全図



凡 例	
	比較的明瞭な地すべりブロック
	地すべり頭部滑落崖
	主に崩壊跡
	概ね45° 以上の急傾斜地

1/5,000

0 10 30 50 100 200 m

N

2

樹林地（緑地）の量的変化からみた計画地

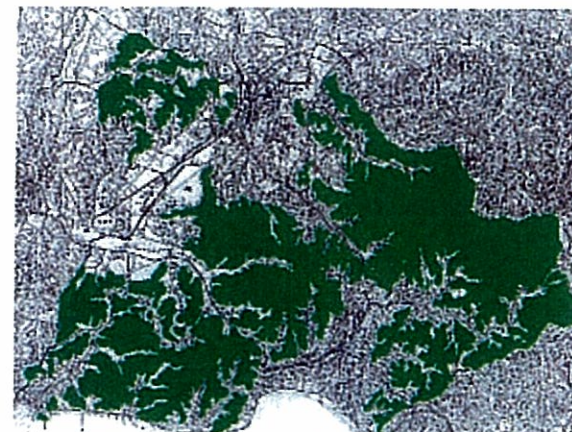
昭和 30 年から 40 年代の大規模開発により急激に減少してきた（下図（鎌倉市緑政都市部みどり課、平成 15 年「鎌倉市自然環境調査-概要版-」））樹林地の減少傾向は、市の東西で異なり、北鎌倉駅の東部では「古都における歴史的風土の保全に関する特別措置法」（古都保存法）などにより、樹林地が比較的まとまって保全されているが、西部では大船駅を中心として減少が進行している。また、樹林地に限らず農地も同時期に宅地化のため減少した。

このような緑地の急激な減少は近年収まりを見せているが、小規模な開発や谷戸沿いの宅地化は依然として進み、緑地は徐々に減少を続けている。

このような背景のもと、計画地は鎌倉市西部の残り少ない樹林地として重要であり、保全していく必要があると思われる。



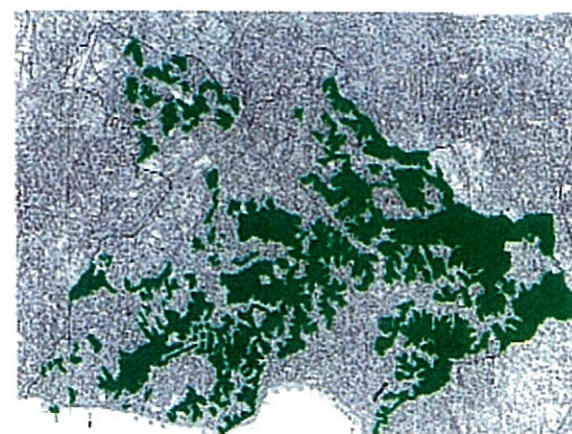
1947年(昭和22年) 樹林地率61%



1962年(昭和37年) 樹林地率48%



1971年(昭和46年) 樹林地率40%

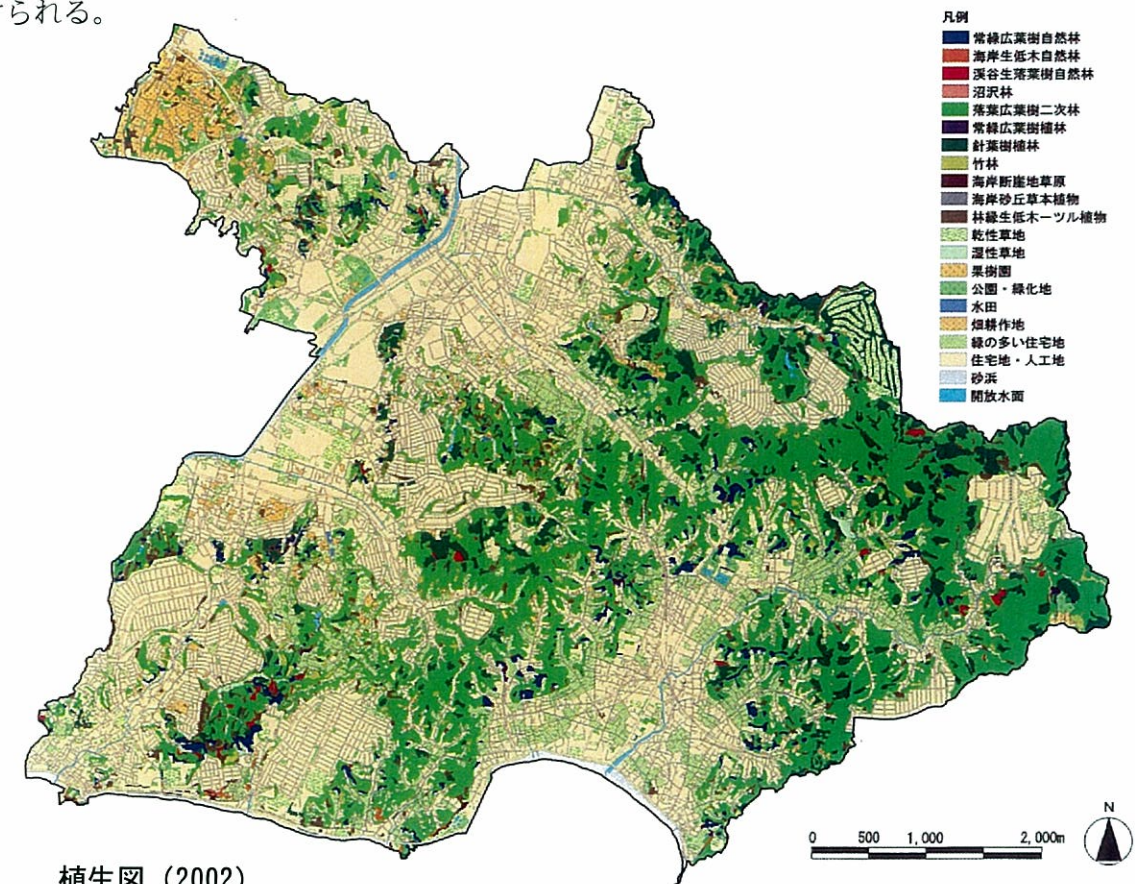


1990年(平成2年) 樹林地率36%

鎌倉市内全域の植生図からみた計画地

鎌倉市内全域の植生図（下図および下表（慶應義塾大学 SFC 研究所、平成 15 年「鎌倉市自然環境調査報告書」）から、鎌倉市は落葉広葉樹二次林が多いことが分かる。そのような中、計画地は落葉広葉樹二次林の他に、常緑広葉樹自然林、溪谷生落葉樹自然林、林縁生低木-ツル植物等の低木から高木まで混在しており、多様な自然環境を創出していると想定される。また、市内東部から西部へと連続する緑地の中で、計画地は西部の端部に位置する多様な植生を備えた緑地であることから、エコロジカルネットワークの面でも重要な地域であると思われる。

このような背景のもと、計画地は鎌倉市の貴重な緑地の一翼を担う役割と、動物の生息環境を創出する役割、エコロジカルネットワーク形成の役割とさまざまな重要な役割を持つ緑地として位置づけられる。



植生図（2002）

植物群落の面性割合（自然域、2002）

植生区分	面積 (ha)	構成比 (%)	植生区分	面積 (ha)	構成比 (%)
常緑広葉樹自然林	68.63	1.74	乾性草地	198.31	5.02
海岸生低木自然林	3.39	0.09	湿性草地	10.23	0.26
溪谷生落葉樹自然林	9.06	0.23	果樹園	3.86	0.10
沼沢林	0.22	0.01	公園・緑化地	60.42	1.53
落葉広葉樹二次林	986.96	24.97	水田	1.30	0.03
常緑広葉樹植林	3.59	0.09	畑耕作地	112.96	2.86
針葉樹植林	204.06	5.16	緑の多い住宅地	303.39	7.67
竹林	67.85	1.72	住宅地・人工地	1,760.46	44.53
海岸断崖地草原	2.08	0.05	砂浜	22.59	0.57
海岸砂丘草本植物	0.57	0.01	開放水面	39.31	0.99
林縁生低木-ツル植物	93.76	2.37	合計	3,953.00	100.00

